

Poster | 外科治療

Poster (III-P43)

Chair: Sadahiro Sai (Dept. of Cardiovascular Surgery, Miyagi Children's Hospital)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

[III-P43-06] 二心室形態の三尖弁閉鎖不全に対する三尖弁形成術

○池野 友基¹, 青木 正哉¹, 芳村 直樹¹, 仲岡 英幸², 斎藤 和由², 小澤 綾佳², 廣野 恵一², 市田 路子² (1. 富山大学 第一外科, 2. 富山大学 小児科)

Keywords: 三尖弁形成術, 三尖弁閉鎖不全, 術後遠隔期合併症

【背景】小児の三尖弁閉鎖不全(TR)は比較的稀な疾患であり成因や手術法等不明な点が多い。当科における TR に対する手術成績について検討した。【対象】2005年4月から2017年1月までに当科で TR に対して三尖弁形成術(TVP)を行った二心室症例 11例を対象とした。手術時平均年齢は 7.9 ± 5.3 歳であった。3例が TR に対する初回心臓手術としての TVP(P群)であり、8例で心内修復後の TR 増悪に対する TVPであった(R群)。術前 TR は、severe 7例、moderate-severe 1例、moderate 2例、slight-moderate 1例であった。【結果】術中所見での TR の原因は中隔尖を主座とするものが10例であり、P群では前尖腱索断裂による prolapse 1例、左室-右房短絡による中隔尖の restriction 1例、Ebstein 奇形 1例であった。R群では VSD patch による中隔尖の restriction 5例、中隔尖乳頭筋異常による restriction 1例、中隔尖乳頭筋異常による prolapse 1例、中隔尖腱索断裂による prolapse 1例であった。このうち明らかな弁輪拡大が TR に寄与していたと判断された症例は R群 2例のみであった。形成手技として edge-edge repair 5例、Key-Reed 法 5例、cleft 閉鎖 3例、人工腱索 2例、ring annuloplasty 1例、De-Vega 法 1例、Cone 手術 1例を施行した。平均観察期間 53.9 ± 45.1 ヶ月での遠隔死亡はなく、5年間の moderate TR 回避率は 90.9%であった。遠隔イベントとして術前から severe MR を合併していた症例で、TR は trivial にできたものの術後左心不全の増悪のために1ヶ月後に僧帽弁置換を要した。また、直後に moderate TR が残存した症例で、遠隔期に VSD patch による中隔尖の restriction がさらに進行し6年後に再手術を要した。【結語】二心室形態を有する小児期の TR では中隔尖の変性病変が多く、特に心内修復後症例では VSD patch による弁尖の restriction が問題となった。1例で再手術を要したものの TVP の成績は早期だけでなく遠隔期においても許容できうるものであった。